

函館古地図マップ

明治の函館を巡る

函館市公式観光情報サイト

はこぶらで詳しい情報がご覧いただけます。

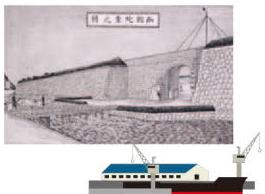
はこぶら 古地図マップ

検索





1 砲台(弁天砲台)



辨天町(弁天町) 明治15年頃 d
港湾防備のため五棱郭と同時期に着工。工期7年を要し、元治元年竣工。15門の大砲を備え、箱館戦争時には旧幕府脱走軍が布陣。明治29年取り壊され、現在は函館どつく⑦。

4 船改所



仲浜町(大町) 明治8年以降 b
江戸時代は沖の口番所といい、入港する船の積み荷・旅人の検査と徵税を行った。明治8年から船改所と称した。同18年からは水上警察署が同居、同20年廃止。現在は臨海研究所②。

5 造船所(辻造船所)



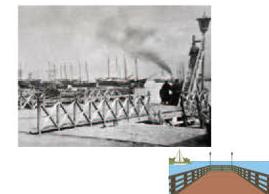
仲浜町(大町) 明治10年頃 b
仲浜町の海面約1800坪を埋め立て、明治11年2月に竣工。創業者の辻松之丞は幕末期に西洋帆船の建造経験があった。現在はおぐま冷蔵倉庫が建つ。

7 稅関



仲浜町(大町) 明治16年 a
安政6年関税徵収を目的に設置された運上所(弁天町)に始まる。明治6年に函館税關と改称。同44年にルネサンス様式に建て替えられた。昭和43年に取り壊され、現在は海上自衛隊函館基地隊④に。

8 栈橋(東浜桟橋)



東浜町(末広町) 明治初期 b
明治4年開拓使が設置。若松町に鉄道連絡船の桟橋ができる同41年までは、港内に停泊した船舶からはしけに乗換えた旅客が上陸する桟橋。現在は旧桟橋②として整備され、港内の夜景を楽しむスポットに。

9 臺町貸座敷



臺町(船見町) 明治15年頃 d
明治6年に開拓使は貸座敷業の営業地として豊川町・台町・蓬萊町の3か所を指定し、公娼制度が存続した。座敷数20軒ほどが営業。

21 百十三銀行



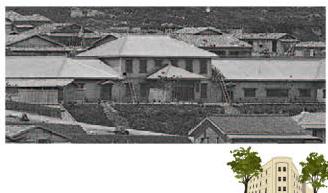
末廣町(末広町) 明治14~15年頃 b
明治12年八幡坂下で営業を開始。同40年大火後に東浜町に移転、さらに大正11年函館銀行と合併し、本店を筋向かいに新築移転。その建物が現在はSEC電算センタービル⑦。

25 第二公立病院(函館病院)



天神町(弥生町) 明治15年 a
文久元年設立の箱館医学所が当初の姿見坂上から船見町へと移り、明治12年大火後、基板に新築移転。その後も大火で何度か焼失・再建を繰り返す。平成12年、港町に新病院を建設・移転。現在は観光バス駐車場⑦。

26 天神学校(弥生学校)



天神町(弥生町) 明治15年 a
明治11・12年の大火で焼失した3校(松蔭・常盤・内潤)の統合校として同15年新築。隣接の坂名を冠し弥生学校とした。昭和9年大火後の鉄筋コンクリート建築の校舎は平成24年に建て替え、現在は弥生小学校⑦。

28 函館県庁



元町(元町) 明治15年 a
旧箱館奉行所跡地に明治13年開拓使函館区役所、15年函館県庁が置かれる。当時北海道は3県制(函館・札幌・根室)。同42年ギリシャ建築風外觀の函館支庁舎新築。現在は観光案内所、写真歴史館①。

30 イギリス領事館



元町(元町) 明治16年 a
安政6年開設、明治16年に現在の場所に移転・竣工したが、同40年大火で焼失、現在の旧イギリス領事館②は大正2年築。昭和9年に領事館閉鎖後、函館病院の寮を経て平成4年開港記念館として公開。

33 ヤソ堂(天主公教会)



元町(元町) 明治15年頃 b
慶應3年、現在地に仮聖堂を設け、明治10年に最初の聖堂を建立。明治40年、大正10年の大火後、同13年に再建し現在のカトリック元町教会①となる。聖堂内の祭壇はローマ法王から贈られた。

38 招魂社



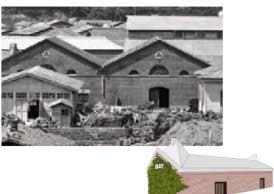
汐見町(元町) 明治15年 a
明治2年、戊辰戦争の官軍戦死者を祀るために造営。その後、日清・日露・太平洋戦争の戦死者を合祀。昭和14年護國神社④に改称。境内に新政府軍兵士の墓所がある。

39 公園地(函館公園)



青柳町(青柳町) 明治15年頃 b
道内最初の洋式公園。英國領事ユースデンの呼びかけに市内財界人が呼応。明治11年着工、翌12年開園し、函館公園③として現存。園内の博物館(1号)は同12年開館で現存する建物としては我が国最古。

40 三菱倉庫



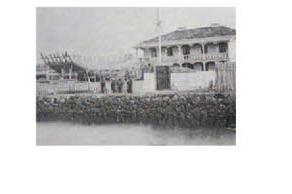
船場町(豊川町) 明治15年 a
明治15年三菱汽船が煉瓦積みの倉庫と事務所を建設。同40年に増改築、長く日本郵船の倉庫。昭和63年BAYはこだて②としてショッピングモールに。建築当時の煉瓦積みの壁が現在も残る。

41 常備倉



豊川町(豊川町) 明治8年頃 b
開拓使の非常用備蓄倉庫として明治8年完工。茂辺地製造の煉瓦を使用。同23年の払下げ以降は安田倉庫。平成19年、倉庫を解体しホテルラビスタ函館ベイ②となつた。1Fの一角落には記念ギャラリーがある。

43 外国造船所(トムソン造船所)

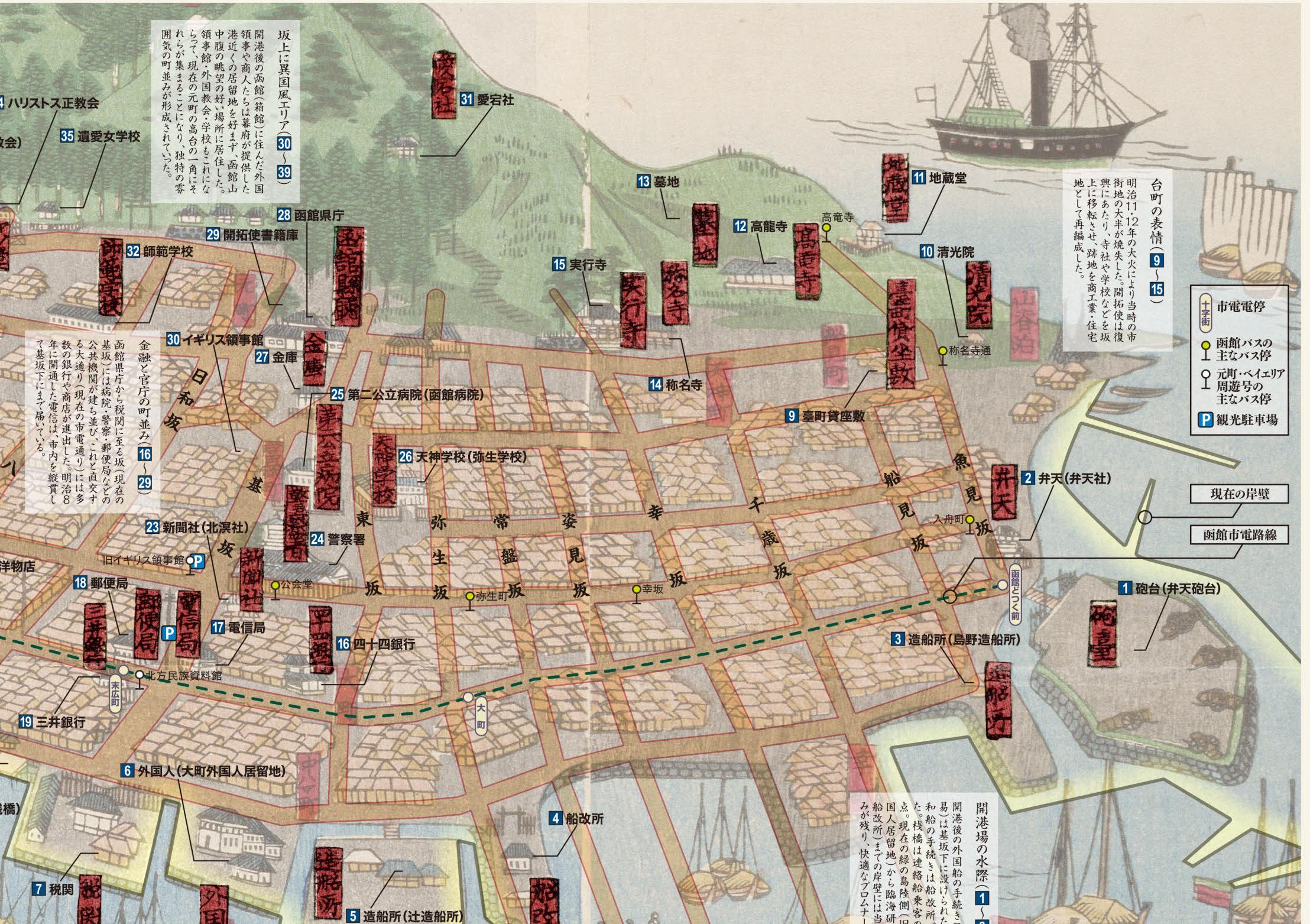


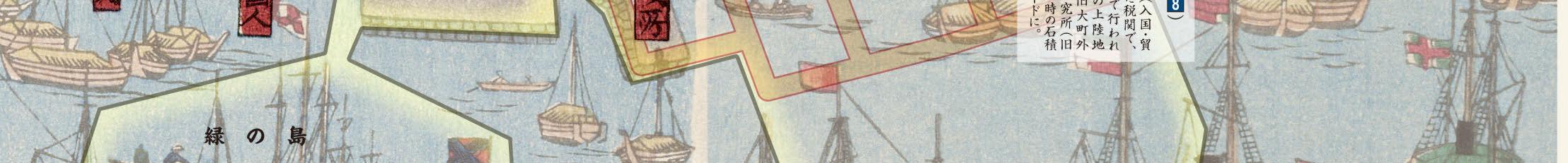
豊川町(豊川町) 明治10年代 b
慶應元年英國領事館の元警備官トムソンが現在の豊川町に造船所を設置。明治8年以降、開拓使が洋式船の建造を奨励、造船業は一大活況を呈していた。建造実績は当時函館隨一。

46 栄国橋



地蔵町(末広町) 明治10年頃 b
享和元年箱館奉行が当時の地蔵町で築島と堀割を造成、荷揚げと作事場とした。その堀割に架けられた橋のひとつ。堀割はその後旧高田屋敷まで延長、明治21年に埋め立てられ現在の銀座通りができる。





緑の島

12 高龍寺



臺町(船見町) 明治44年頃 b
曹洞宗の寺院で市内に数の伽藍をもつ。寛永年間、龜田に創設後幸坂下に移転。箱館戦争時には病舎が置かれた。明治12年現在地に移転。現在は高龍寺④の山門は同44年竣工。

17 電信局



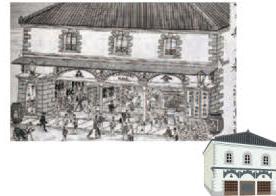
大町(大町) 明治後期 c
明治8年、東京一函館間に電信が開通。現在の電車通りなど市内を縦貫して電信柱が設置され、当時の函館の公的機関が集中していた基坂下に同14年、電信局が新築移設された。

19 三井銀行



末廣町(末広町) 明治14年頃 b
明治5年三井組の名で函館に店舗を設置。同26年、同店が移転し、日本銀行が入る。二度の火災を経て、大正15年新築落成。昭和63年同支店が移転し、函館市が建物を継承して現在は北方民族資料館②。

20 金森洋物店



末廣町(末広町) 明治15年頃 d
明治13年、豪商渡辺熊四郎が舶来品を扱う店舗として創建。煉瓦積み漆喰仕上げ、窓も土塗という耐火建築。40年大火でも類焼せず、明治初期の建築物で今日まで残る数少ない存在。現在は郷土資料館②。

2 弁天(弁天社)

豊漁祈願の神社として知られる弁天社は当初、岬の端にあったが、安政4年現在地に移転し、巣島神社①に。

3 造船所(島野造船所)

明治初期には、トムソン・辻と並び函館の3大造船所に。

6 外国人(大町外国人居留地)

開港後、大町の海面を埋め立てた約2000坪を初の外国人居留地とした。

10 清光院

天台宗の寺院、文久元年天神町に創建、明治6年台町に移転。現在は真言寺。

11 地藏堂

当初山ノ上町にあり、各宗派の火葬場であった。享和2年台町に移転。現在は地藏寺②。

13 墓地

区民墓地(詳細不明)

14 称名寺

浄土宗の寺院。外国人休息所や英國領事館に使用され、明治12年の大火後現在地に②。

15 実行寺(じつきょうじ)

日蓮宗の寺院。外国人休息所、ロシア領事の宿泊所を経て、明治14年現在地に④。

16 四十四銀行

明治12年、東京第四十四国立銀行函館支店。同15年第三國立銀行に譲渡。

18 郵便局

明治5年設立。大火で何處か移転の後、同13年基坂下の電信局向いに新築移転。

22 百四十九銀行

明治12年、旧島原藩主らが設立し函館で開業。同18年に破たんし、百四十九銀行と合併。

23 新聞社(北溟社:ほくめいしゃ)

明治11年に函館新聞を創刊。同12年の大火後富岡町(函館病院下)に移転。同31年函館毎日新聞に改称。昭和12年休刊。

24 警察署

明治14年、函館警察署本署が当時の函館病院のすぐ下、富岡町に新築移転。

27 金庫

明治10年頃、開拓使函館支庁の真向かいに建てられた金庫。

28 開拓使書籍庫

明治13年に開拓使が設置した煉瓦造りの書籍庫。同40年の大火でも類焼を免れて旧開拓使函館支庁書籍庫④として現存。

31 愛宕社(あたごしゃ)

当初は愛宕坂(現在の東坂)上にあり八幡宮の摂社。その後廃止され、船魂神社に合祀。

32 師範学校

明治9年会学校内に開設。同13年函館師範学校と改組・改称。

42 公立病院

区内2つめの病院として明治11年創立。同39年の廃止以降も私立豊川病院として存続。

44 氷庫

五稜郭水の保冷・貯蔵施設として明治3年豊川町に設けられた氷室。

45 器械製造所

明治13年渡辺熊四郎らが真砂町に設立した船用機器製作所。函館港渠(現函館どく)の前身。

47 夷橋(えびすばし)

船場町の築島に発する堀割が願乗寺川と合流する地点に架けられた橋。

49 蓬萊貸座敷

明治6年、蓬萊町に貸座敷営業が認められた。同15年、座敷數40軒と隆盛を極めた。

50 東照宮

寛政9年創立。五稜郭の築造に当たり神山村に神殿を造営。明治12年蓬萊町に移転。

51 監獄署

明治11年春日町に設けられた獄舎。場所は現在青柳町常住寺付近。

53 宝学校

明治11年開校。同12年大火で多くの小学校が被災し、一時は340名の大規模学校に。

55 マッチ製造所

明治11年、服役囚の発案によるマッチ製造所が監獄署隣接地に設置された。

34 ハリストス正教会



元町(元町) 明治15年頃 b
初代ロシア領事ゴシケーヴィチが安政6年、領事館付属聖堂として創立。文久元年来函の司祭ニコライが、ここを拠点に布教活動。明治10年大火で焼失、大正5年再建のハリストス正教会④が現存。

35 遺愛女学校



元町(元町) 明治15年 a
明治15年にメソジスト会により創立。同40年杉並町に新校舎を建築中に大火で焼失した。附属幼稚園が同28年に併設され、現在の遺愛幼稚園④は大正2年築で現役。ピンクの板張りの外観が印象的。

36 東本願寺



元町(元町) 明治15年 a
明治12年大火後現在地に移転。その後も再三火事に見舞われたため、大正4年本堂を日本初の鉄筋コンクリートとしたのが現在の真宗大谷派函館別院④。大正10年大火では類焼を免れ、3万3千枚の瓦屋根は圧巻。

37 裁判所(函館裁判所)



汐見町(元町) 明治15年 b
江戸時代、蝦夷地警備の南部藩が陣屋を設置。明治維新時に焼失。跡地に明治8年函館裁判所が設置された。同31年に汐見町に移転。現在は観光駐車場で二十間坂④に面する。

48 女紅場(旧高田屋敷)



蓬莱町(宝来町) 明治10年頃 b
元は豪商高田屋嘉兵衛の屋敷があった場所に明治11年、女子教育(実際は娼妓教育)の目的で設立。隣接して蓬莱町遊郭があった。同20年に廃止、その後はピアホールなどになったが同40年大火で焼失。

52 芝居(池田座)



寶町(東川町) 明治16年 d
池田座は明治16年寶町で営業開始。函館の芝居等の興業は江戸期には山ノ上町一帯にあったが、明治以後、蓬莱町周辺に芝居小屋、寄席が建つようになり、同28年に「新藏前」の名称で「興行認可地」とされた。

54 西本願寺(願乘寺)



東川町(東川町) 明治10年代 b
堀川乗経が安政5年創設した真宗本願寺派の寺院。後に本願寺函館別院④に改称。乗経は函館山麓への人工水路(新亀田川)の開削で有名。平成25年、昭和9年の大火で焼失した本堂を模して再建。

55 監獄署



東川町(旭町) 明治11年頃 c
明治6年、現在消防署本部のある場所に刑務所(当時は「監獄署」)があった。同18年には手狭となったため千代台に移転。署内に囚人の労働力を利用した製革所、隣接地にマッチ製造所などが設けられた。

(注) タイトルの施設名は当時の呼称。記事中冒頭の町名は当時、() 内は現在の町名。

年代は写真等の撮影・制作時期、a~dはデータの所蔵元を示す。

現存する建物がある場合は②、①…を付して表面のイラストと対応。

a: 函館市中央図書館(デジタル資料館・田本バノラマ写真)

b: 函館市中央図書館(デジタル資料館・その他写真)

c: 北海道大学附属図書館(北方関係資料データベース・明治大正期北海道写真目録)

d: 函館市中央図書館(デジタル資料館・商工函館の魁)

裏面

【函館真景】の中で現在の西部地区にはほぼ該当する部分を切り出して拡大。【真景】の記載事項に沿って、明治15年当時の写真等と解説を付しました。現存する建物などがある場合は「表面」との対照ができるようにしています。なお現在の市電路線、岸壁、主なバス停、駐車場の位置も記載し、街歩きのガイドとなるよう工夫しています。